

衆議院安全保障委員会ニュース

平成 30. 11. 16 第 197 回国会第 3 号

11 月 16 日（金）、第 3 回の委員会が開かれました。

1 国の安全保障に関する件（砲弾の着弾事故について）

- ・ 砲弾の着弾事故について、岩屋防衛大臣から報告を聴取しました。

2 防衛省の職員の給与等に関する法律の一部を改正する法律案（内閣提出第 10 号）

- ・ 岩屋防衛大臣、政府参考人及び会計検査院当局に対し質疑を行い、質疑を終局しました。
- ・ 採決を行った結果、賛成多数をもって原案のとおり可決すべきものと決しました。
（賛成－自民、立憲、国民、公明、無会、共産、社民、未来 反対－維新）

（質疑者及び主な質疑内容）

大岡敏孝君（自民）

- ・ 本年 11 月 14 日に陸上自衛隊饗庭野演習場で訓練中に発射した迫撃砲弾が国道 303 号線付近に着弾し破裂した事故に関し、その原因として、天候、装備品の不具合又は自衛隊員の練度の問題があると考えられるが、岩屋防衛大臣の見解を伺いたい。
- ・ 国民の信頼を回復するためには、同事故の原因を早急に究明し改善を行った上で、速やかに訓練を再開し、訓練を積み重ねて練度を上げていくことが必要と考えるが、岩屋防衛大臣の見解を伺いたい。
- ・ サイバー防衛の必要性が高まっているにもかかわらず、高度な IT 人材が不足していることから、防衛大学校に IT の専門家を育成する学部を設置するべきと考えるが、岩屋防衛大臣の見解を伺いたい。

佐藤茂樹君（公明）

- ・ 自衛官の採用人数が採用計画数より少なくなっているため、防衛省は採用時の年齢制限の引上げや体重制限の緩和をしたと承知しているが、その施策の狙いと内容について、岩屋防衛大臣に伺いたい。
- ・ 上記の施策について、国民に周知するためにどのような広報活動をしているのか、防衛省に伺いたい。
- ・ 政府は、一般職の国家公務員の定年延長を検討しているが、任務の特殊性から若年定年制を採用している自衛官についても、定年を延長することを検討しているのか、また、延長する場合には自衛官の精強性をどのように維持していくのか、岩屋防衛大臣の見解を伺いたい。

青柳陽一郎君（立憲）

- ・ 陸上自衛隊饗庭野演習場における迫撃砲の着弾による事

故に関し、着弾地点が目標地域から大きく外れていたにもかかわらず、周囲の被害状況が確認されないまま、訓練が約 1 時間 30 分にわたり継続されていたという訓練の管理の在り方について、岩屋防衛大臣の見解を伺いたい。

- ・ 米国のトランプ大統領やペンス副大統領が来日の際、民間の飛行場を利用せず、在日米軍基地の飛行場を利用し入国することについて、岩屋防衛大臣の見解を伺いたい。
- ・ 防衛関係費が毎年増加する中、平成 29 年度決算検査報告（平成 30 年 11 月 9 日）に掲載された不当事項などの指摘金額計 1,156 億 9,880 万円のうち、防衛省に関するものが 5 割を超えていたことについて、岩屋防衛大臣の認識を伺いたい。

渡辺周君（国民）

- ・ 本年 2 月に発生した佐賀県での自衛隊ヘリ墜落事故について、事故原因に関する最終的な調査結果はいつ出せるのか、岩屋防衛大臣に伺いたい。
- ・ 北朝鮮籍とみられる木造船が多数漂着していることを受けて、平成 31 年度から警察庁が導入する方針の監視カメラシステムは、日本海沿岸の広い地域が対象となることから、相当の数が必要となるが、どのように取り組んでいくのか、警察庁の見解を伺いたい。
- ・ 岩屋防衛大臣が大臣就任前に述べていた「防衛費は少なければ少ないにこしたことはない」という考えは、次期防衛大綱や中期防衛力整備計画に盛り込まれるのか、岩屋防衛大臣の見解を伺いたい。

広田一君（無会）

- ・ 一般職の国家公務員については、将来東日本大震災に匹敵する大災害が発生した場合の特殊勤務手当の特例があ

らかじめ整備されているが、防衛省の職員については、これに相当する手当の特例が設けられていないことから、一般職と同様にあらかじめこれを整備しておくべきではないか、岩屋防衛大臣に見解を伺いたい。

- ・自衛官の定年については、誕生日に退職することとされており、その理由として、自衛隊の精強性の確保や定年後の再就職への迅速な対応などが考えられるが、制度創設当時、どのような理由でこれが定められたのか防衛省に伺いたい。
- ・即応予備自衛官の充足率が低下している中、予備自衛官補から即応予備自衛官になる採用ルートを確認する必要性について防衛省で検討が行われてきたと認識しているが、検討結果について防衛省に伺いたい。

赤嶺政賢君（共産）

- ・辺野古新基地建設に関して、防衛省が国土交通省に職員の出向を求めた経過及び理由、出向者の人数及び選定基準並びに出向後の具体的な職務について伺いたい。
- ・専門的知見を有する一般職員だけではなく、国土交通省の幹部職員まで防衛省に出向している理由は何か、防衛省の見解を伺いたい。
- ・建設工事において国土交通省と協力関係にある防衛省が、国土交通大臣に対して行政不服審査法に基づく審査請求及び執行停止の申立てを行うことの妥当性について、岩屋防衛大臣の認識を伺いたい。

下地幹郎君（維新）

- ・本年末に策定予定の次期防衛大綱において、自衛官の新たな給与体系をつくる方針を示す考えはあるか、岩屋防衛大臣の見解を伺いたい。
- ・国家公務員の定員の4割以上を自衛官が占めていることを踏まえると、給与関係閣僚会議のメンバーに防衛大臣が加わるべきと考えるが、岩屋防衛大臣の見解を伺いたい。
- ・世界一危険と言われる普天間飛行場よりも飛行回数や周辺の病院・学校等の施設の数が多い空港も存在するが、何をもって危険な飛行場とするか、その判断基準について、

岩屋防衛大臣の見解を伺いたい。

照屋寛徳君（社民）

- ・沖縄県石垣市の陸上自衛隊駐屯地の建設予定地で、防衛省から測量を委託された業者が、地権者に無断で農園に立ち入り、栽培作物などを伐採した事案について、防衛省は、文書での謝罪だけではなく十分な補償をすべきと考えるが、岩屋防衛大臣の見解を伺いたい。
- ・当該駐屯地の建設については、本年度の着工を目指すのは沖縄県の環境アセスメント条例の適用を逃れるための駆け込み着工だと沖縄県民から非難の声が上がっており、また、自衛隊の配備を巡って住民投票の実施を目指す動きがあることから、拙速な着工は避けるべきと考えるが、岩屋防衛大臣の見解を伺いたい。
- ・岩屋防衛大臣は、本年11月10日に沖縄県を訪問した際、仲井眞元知事が求めた普天間飛行場の5年以内の運用停止が困難であるとした上で、新たな目標を国と県が設置できるようにしなければならないと発言したが、これは、以前の約束を反故にして運用停止期限を新たに設けるとの考えなのか、それとも運用停止や危険性除去の在り方を見直して新たに定義するとの考えなのか、岩屋防衛大臣に伺いたい。

長島昭久君（未来）

- ・本年末に予定される次期防衛大綱の策定に当たっては、防衛大綱の上位概念である国家安全保障戦略の見直しを行う予定はないのか、岩屋防衛大臣に伺いたい。
- ・現防衛大綱の策定時点から5年が経過したが、その間の我が国を取り巻く安全保障環境の変化について、岩屋防衛大臣の認識を伺いたい。
- ・米国のトランプ政権が昨年12月に公表した国家安全保障戦略では、現下の国際情勢を大國間の競争と認識し、中国とロシアを既存の国際秩序に対し挑戦を試みる「修正国家」と明記しているが、日本の防衛大臣としてこのような国際秩序観を共有しているのか、岩屋防衛大臣に伺いたい。